

毎年このようにあつながら正確なことはあまり知られていない。安成哲三助教授(地球科学系)に話をうかがった。

—なぜ梅雨になるのでしょうか。

安成 助教授 難しい質問ですね。それを説明するには世界の風系から話をしないと行けません。まず、梅雨は東アジア特有で春と夏の間になることを確認しておきましょう。

夏と冬では風の向きが違つていこう。夏は海から陸へ、冬は陸から海へ吹きますが、これは、一日の風向きが昼と夜と違つると同じです。昼はどう吹いてますか。

ま成 そう、夏は海から陸へ、夜は逆です。これを海陸風と言いますが、なぜこうなるのでしょうか。

—太陽熱の吸収率の差ですね。

安成 まあそうですね。海

—本学教官に聞く—

「梅雨はなぜ起こるのか」



安成哲三助教授

暖まりやすい。しかもあまり高く、横長であるため、その北の冷たい空気と交わる。冷たい空気と暖かい空気の間、梅雨前線です。

東側の日本は梅雨になる絶好の位置にありますね。アメリカ大陸にもロッキー山脈があるが、低くて縦長のため空気が交わりやすいんです。—ではヒマラヤ山脈が北からの冷たい空気、やませの南限だからです。言葉だけじゃなく、気候も東北の南限なんじゃないか。

—今年の梅雨は長びくと安成 それは分かりませんが、今年海温が上昇するエルニーニョ現象が起きていて、これが起る年は梅雨に終わりを告げる太平洋高気圧が弱く、梅雨は長びくと言いますね。しかし統計上です。—ありがとうございます。

と陸の比熱の違いです。これが東アジアにモンスーンをもたらすのです。しかしただの海と陸との比熱の違いだけならアメリカ大陸でもモンスーンは起るはずですね。しかしモンスーンと言えはやはり

に高く、横長であるため、その北の冷たい空気と交わる。冷たい空気と暖かい空気の間、梅雨前線です。

—それは、梅雨は日本特有なんですか。安成 韓国にもありますけど、ヒマラヤの風下で大陸の教えて下さい。